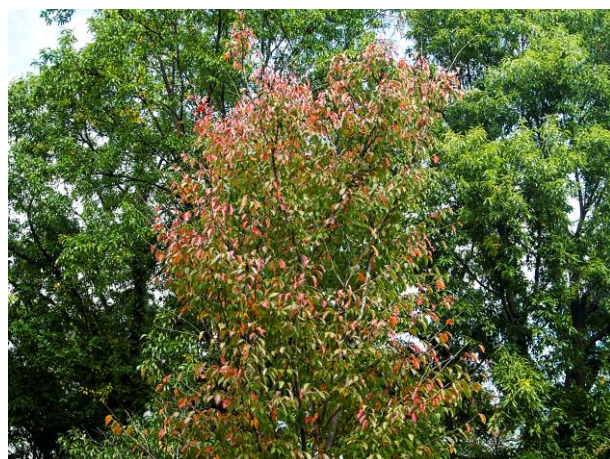


## 植物多様性センターの「紅葉」

秋になり日照時間が短く気温が低下すると、光合成効率も低下します。すると葉の緑色色素クロロフィルが分解し、元から葉に含まれていたカロテノイドの色が目につき黄色になります。更に日光が当たると元はないアントシアニンが生成され赤くなります。同時にこの過程で、葉に蓄えられた養分は幹に回収され、翌春の生長に利用されます。栄養を十分に回収した葉では、植物ホルモンのエチレンの働きにより葉柄の付け根に離層ができ、枝から切り離され落葉します。始まったばかりの紅葉、これから種類も増えて見ごろになります。



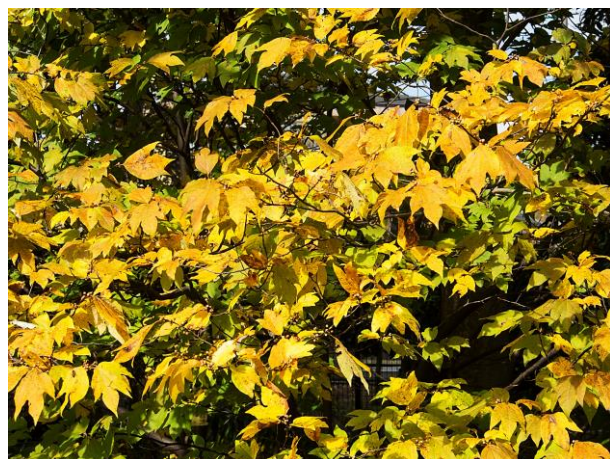
ノムラモミジ(ムクロジ科)  
新芽も紅く夏は緑、秋に再紅葉



オオヤマザクラ(バラ科)  
日当たりの良い先端が紅い



カツラ(カツラ科)  
茶色になった落葉は甘い香り



シロモジ(クスノキ科)  
黄葉の間にはたくさんの冬芽が